

## 針・糸・布・ハサミ・針山を 被災地へ！

先日一週間ほど、いわき・相馬・仙台・釜石・遠野などを巡って来ました。改めて津波の凄まじさを目のあたりにし、また原発の及ぼす理不尽な状況に(私自身しっかりと向き合えてこれなかったふがいなさも含めて)怒りがこみ上げ、現場の風景の怖さと、果敢に作業を続ける自衛隊員や駆けつけたボランティアの人たちの姿、余震の不気味さなどが重なり、京都に戻った今も私は精神的にかなりのダメージを受けているようです。被災者の方々の受けた衝撃や苦難は、それこそ計りしれません。

岩手の遠野総合福祉センター内にあるボランティアの拠点・遠野まごころネット <http://www25.atpages.jp/tonomagokoro/>を訪ねた際、今避難所ではタオルを使った〈がんばるぞう〉作りが人気で、みな針と糸を持って夢中になって縫っているという話を聞きました。やはり縫うという作業は大きな力を持っています。そこで持ち歩いていたAIDSメモリアル・キルトを見てもらい、布を囲んで亡くなられた大切な人のことを思い、おしゃべりし、その人にふさわしいデザインを考え、みなで縫うその時間と場所がどんなに大切な意味を持っているか、スタッフにお伝えしたところ、すぐ分かってくださり、やりましょう、というより、「やってください」と頼まれました。

これから被災地では、学校の体育館などの避難所生活から仮設住宅などに移行していきます。阪神淡路大震災のときも、仮設に移ったお年寄りの方たちの孤独死や自殺が相次ぎました。「あの時死んでいたほうが良かった」という言葉を遺して。キルトは基本的にたくさんの人たちの手で作っていくものです。たとえば仮設の一部屋に集まり、針と糸を持ち今は浄土におられる人や動物たちのことを語り合い、失われた町の風景を取り戻しながらぼちぼちと縫い上げてゆく、ほどけ、とけあうような時間、そしてそのような場所を持つことがキルトを作ることの本来の意味です。作られたものを展示し発表することなどは二次的なことだと思っています。ただ、もしこのキルトが何百年先までも残されていけば、後の世の人たちへの大切なメッセージに、結果としてなるとは思います。

そこでみなさんにお願ひがあります。キルトを作っていくための道具や素材を集め送ってほしいのです。

お子さんなどが学校で使った洋裁セットなどは最適。もちろんセットでなく単品でもありがたいです。

針(穴の大きめなもの) 針山、縫い糸(どんな色でもOK) ハサミ(糸切りハサミ・裁ちハサミ) キルトのベースとなる布(縫いやすい木綿布、無地、色があってもよい。一枚のサイズが1m×2m・長いままでも。新品でなくても) キルトデザインのための端切れ布(10cm平方以上の物。やはり縫いやすいものを。柄物OK)

送り先は風工房・齋藤、6月5日までに届くようお願いいたします。(その後もずっと受け付けます)

みなさんの友達にも知らせてください。近くの小中高等学校などに頼んでまとめてもらうのもよいですね。

これらのことを実現するための人手が必要です。たとえばホームページ作り、チラシづくり、送ってくださった方々への返事担当、会計係、また現地に行ってキルト作りのアドバイスなどができる人など・・・手伝ってもよいと思われる方は連絡をください。また現地の辺りで、このような作業を理解してくれる、布好きなお知り合いがおられましたら紹介してください。

606-8321 京都市左京区岡崎東福ノ川町24 075-762-0500 齋藤 洋

[dye.kazafu@gmail.com](mailto:dye.kazafu@gmail.com)

AIDSメモリアル・キルトは、人をエイズという病名や 数量で表すのではなく、キルトを縫うという作業によってこの病で亡くなった、一人の人間の存在を見つめなおし記録していこうと、25年前にサンフランシスコで始まりました。今もこの病に苦しむ人たちの傍らで、世界中で縫われ続けているアートであり、工芸であり、祈りでもあります。日本では1990年メモリアル・キルト・ジャパンが設立され、今も活動を行っています。 <http://mqj.jp>

被災地 NGO 協働センター : <http://www.pure.ne.jp/~ngo/> 神戸のNGO 被災直後から現地に入り活動。宮崎新燃岳の野菜を今回の被災地に運び炊き出し。各避難所での足湯、〈まけないぞう〉作りなど被災者に寄り添う活動をしている。

